

授業改善書

科目名	日本語の運用
担当者	三浦正雄

授業の概要

社会人として活動する上で、正しい日本語表現をする能力は、必要不可欠のものです。特に、現代社会では、コミュニケーション能力不足のために様々な人間関係の問題が多発しています。〈日本語の運用〉では、社会人として必要な正しい日本語表現を、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の四つの分野から具体的に学習し、最終的には論文を書くことにつなげてゆきます。高校の国語科の復習をし、正しい日本語表現に興味を持ち、基礎から身につけることが目標です。同時に、言葉についての様々な知識や書籍についての情報なども講義します。全員が、スピーチの実演を行います。〈文章作成法〉に接続する形で授業を行いますので、秋期の〈文章作成法〉の履修を予定している者の受講が望ましいです。

授業の問題点

「日本語の運用」を学習するには15回の授業でも少ないと感じられます。できるだけ重要なポイントにしぼることを心がけていますが、中学・高校で学ぶ文法や文章作成の基礎事項が身につけていなかったり、携帯・パソコンの多用により語彙力や語義の知識が定着してなかったりなど、土台固めを行う必要がその都度生じてまいります。そのために、どうしても中学・高校の国語科の学習内容を復習する時間が必要となります。そのためどうしてもスピードが速くなることがあります。速すぎないように進めることが課題です。

スピーチについては、いつも学生が熱心に取り組んでいるので、少しでも原稿を書くために調べやすいように、書きやすいようにアドバイスをしています。

本年より経済経営学部の学生が受講しているので、題材については、なるべく子ども発達学科と共有できるものを模索しています。

授業改善の課題・方策

学生のコメント用紙を毎回見ながら、進度が速すぎないかをチェックしています。本年については、フィードバックが順調で適正な進捗で進められたようです。今後も、進むスピードや声の大きさなど、絶えずコメント用紙を参照しながら、適正に進められるように配慮したいと思います。

スピーチ課題は、社会の変化に応じて、また受講者の学年や学科の変動に応じて、題材を変化させてきていますが、今後も受講者の層を見ながら、適切な題材を提供できるように努めたいと思います。

質問や発言については、やや少ないので、気軽に質問や発言をできる雰囲気作りにも努めたいと思います。

その他

資料やテキストについて、今後も再検討を続けたいと思います。